神代から大和時代の天皇系譜

第12代
景行天皇

播磨稲日大郎姫
（はりまのいなびのおおいらつめ

倭建命
日本武尊

両道入姫命
（ふたじいりひめのみこと）

第14代
仲哀天皇
足仲彦
（たらしなかつひこ）

仲姫命
（なかつひめのみこ）

第15代
応神天皇

応神天皇5世の孫とされている

息長真若中比売
（おきながまわかなかつひめ）

滋賀県米原市

おきながのすくねのみこの娘（おきながたらしひめ）

第9代
開化天皇

息長宿禰王

神功皇后
息長帯姫

第16代
仁徳天皇

磐之媛命
（いわのひめのみこと）

第24代
仁賢天皇

春日大娘皇女
（かすがのおおいらつめのひめみこ）

第25代
武烈天皇

悪逆非道な天皇であった。
応神天皇から仁徳天皇・武烈天皇まで10代続いたが、25代で直系の皇子が不在となった。

姉

手白香皇女
（たしらかのひめみこ）

第26代
継体天皇

彦主人王

振姫

息長氏の血統

尾張目子媛
（おわりのめのこひめ）

第29代
欽明天皇

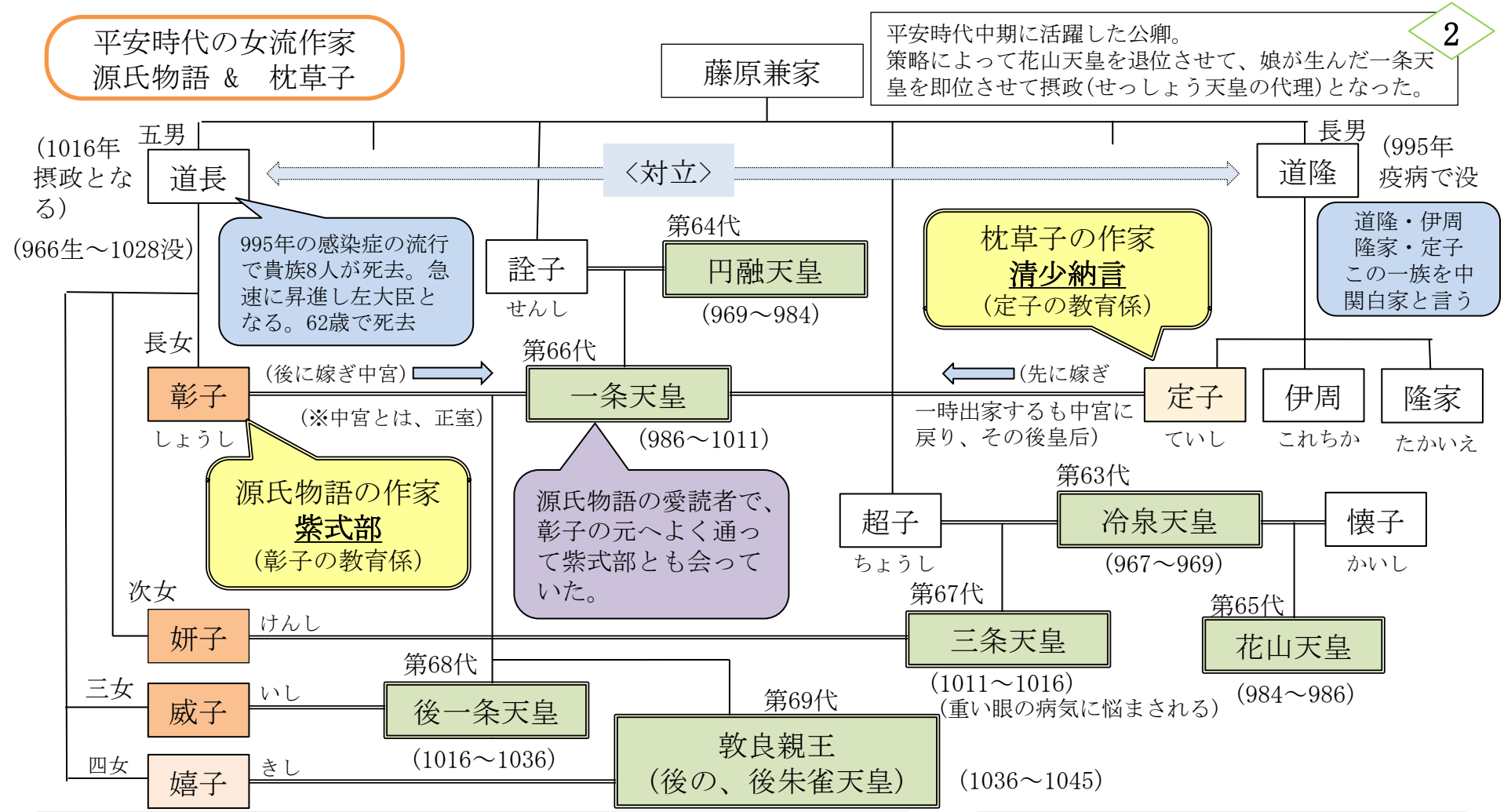
第40代
天武天皇

（略）→

第27代
安閑天皇

第28代
宣化天皇

平安時代の女流作家
源氏物語 ＆ 枕草子



紫式部(生没年不詳)　源氏物語の作家
世界最古の長編小説(全54巻)　長編小説/平安中期作

皇子の子ながら臣籍に下った(※)美男子「光源氏」とその子供、孫の時代、約70年間を描く。光源氏は成長後、様々な女性と恋愛を重ねる。亡き母と似た父の後妻、憧れの人に似た少女、年上の未亡人など。その後、左遷を経て京に戻り、太政大臣に上り詰めるが、最愛の女性に裏切られ、最後は出家する。
(※)臣籍降下（しんせきこうか）とは、皇族がその身分を離れ、姓を与えられ臣下(しんか、配下・部下・家来などの意味)の籍に降りることをいう。

清少納言(966年頃～1025年頃)
枕草子の作家　随筆/平安中期作

宮中生活での体験や出会った人々についての感想を、平仮名を中心として和文で綴った随筆集(305段)。鋭い感性と観察眼で自然や人物を切り取ったり、定子との中宮生活を回想するなど、多彩な内容がある。知的で軽妙、明るい作品が多い。